

二本松市に「新しい晨」を

二本松市長(福島県) 三保恵一

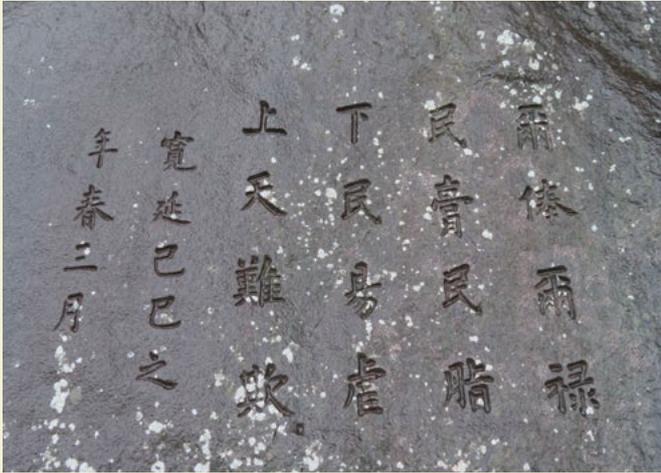


ふるやうの山に登る!!

私が住む二本松市は、福島県の中央よりやや北に位置し、名峰「安達太良山」の山並みと母なる川「阿武隈川」の清流に育まれた古い伝統と歴史を誇る、人口約5万3000人の城下町です。

二本松の歴史を紹介させていただきます。室町時代に奥州探題・畠山高国が居館を構え、地名を「二本松」としたことが始まりで、七代当主の畠山満泰の時代には、守りに適した「白旗ヶ峯」に二本松城を築きました。

藩政時代には、寛永20(1643)年に初代二本松藩主・丹羽光重公が十万七百石で



藩士の戒めとするため刻ませた「戒石銘」(国指定史跡)

入府し、以来、明治元(1868)年までの220有余年にわたり、丹羽家の居城となりました。

この時、光重公が行った城下の町割りの痕跡は、現在も色濃く残っており、城下町の風情を感じることができます。

古い伝統と歴史のある二本松市に生まれ育った私は、戊辰戦争における「二本松少年隊の悲話」には、心を痛めますが、城下町として栄えた伝統的な雰囲気が好きで、二本松城跡で開催される「二本松の菊人形」や、江戸時代から続く「二本松の提灯祭り」「小浜の紋付祭り」「針道のあばれ山車」、また、鎌倉時代前後から始まったとされる「木幡の幡祭り」など、個性と趣のある祭りには毎年欠かさず訪れています。

また、二本松城には、五代藩主・丹羽高寛公が藩政改革と綱紀肅正、藩士の戒めとして、巨石に刻ませた4句16文字からなる「戒石銘」が今もその姿を見せています。

爾俸 爾禄 [なんじの俸 なんじの禄は]
民膏 民脂 [民の膏 民の脂なり]
下民 易虐 [下民は 虐げやすきも]
上天 難欺 [上天は 欺きがたし]

「お前の俸給は、人民が脂して働いたたまものより得ているのである。下々の人民は虐げやすいけれども、天を欺くことはできない。お前は人民に感謝し、いたわらね

ばならない。この気持ちを忘れて弱い人民を虐げたりすると、きっと天罰があるであろう」

戒石銘は、273年の時を経て今も公務に携わる者への警鐘、戒律として私たちに語りかけています。

私は、「戒石銘」を座右の銘、指針としているところであります。

本年4月には、戒石銘から歩いてすぐの場所に、二本松市歴史観光施設「にほんまつ城報館」がオープンいたしました。

施設には二本松城や二本松藩の歴史と文化を紹介する展示室のほか、市内の観光名所や名産品を紹介する観光情報ギャラリーなどがあり、中でも、360度のスクリーンに映し出される二本松城ガイダンス室は、周囲を囲む5面の大型スクリーンで映像の世界に入り込んだかのような臨場感や没入感が体験できます。

本市にお越しの際には、ぜひお立ち寄りください。

ふるやうの山に登る!!

高村光太郎の詩集『智恵子抄』に詠われた名峰「安達太良山」。私の自宅から安達太良山の登山口までは30分ほど。毎日の通勤時にも眺めるこの名峰は、四季折々の美しい姿を魅せてくれます。

人と山をつなぐ「YAMAP」が「2021年に『東北で最も登られた山』ランキング」



安達太良山に登る筆者

を公開し、東北エリア第1位にも輝きましたが、私も安達太良山に登った1人でもあります。

安達太良山の麓で育ったこともあり、登山が趣味になりました。山は、季節によって美しい姿を魅せてくれます。初夏の新緑、秋の紅葉、冬には一面の銀世界となり、私たち登山をする者を一年中楽しませてくれます。特に、安達太良山の山頂から望む360度の大パノラマは絶景です。

「こんにちは！」

山頂へ向かう登山道ですれ違う人々と交わす気持ちの良いあいさつからは、多くのパワーをいただいています。無事に登頂で

ければ、そのことを山の神様に感謝いたします。山には、日常では味わえない機会があふれています。皆さんも、ぜひ大自然の中でリフレッシュしてみてください。

ふるさとの偉人を顕彰する

私が尊敬している偉人を1人紹介します。世界的な歴史学者、朝河貫一博士です。

二本松市出身の朝河博士は、今世紀最大の比較法制史学者として国際的に評価をされた日本人であり、日清・日露戦争、第一次世界大戦を経て、太平洋戦争へと進展する時期に、日本が平和で繁栄する道について具体策を提言した人物です。

太平洋戦争における日米開戦の危機に面しては、『日本の禍機』を著し、祖国日本を憂慮し、戦争回避を訴え、昭和天皇宛てルーズベルト大統領親書の草案を起草したほか、大隈重信に「覇権なきアジア外交」を進言しました。

昨今の世界情勢を見ると、朝河博士の平和思想に根ざす祖国愛に燃えた言論活動や、その精神は、今なお現代社会に警鐘を打ち鳴らし続けております。

二本松市に「新しい晨」を

私は「笑顔あふれる しあわせのまち 二本松」の実現、本市の繁栄と市民の「しあわせ」のために、これまで産業の振興や企業誘致、観光の振興、さらには、子



大自然を味わう登山

育て支援、教育の振興などの施策を、市政改革を断行しながら積極的に推進してまいりました。

これから先、本市の素晴らしさを生かし、イノベーションを興し、「二本松力」をさらに磨いて、潜在的な成長可能性を現実のものとしていきたいと考えており、

- ①健康で暮らし続けられるまち
- ②地域の誇りに満ちた活力あるまち
- ③世代をつないで人を育むまち
- ④安全で快適な暮らしのあるまち

をモットーに、二本松市民の「しあわせ」のために尽くしてまいります。